

プロフェッショナリズム 2

【単位数:1.5単位, 授業20コマ(定期試験含まず)】

1 科目責任者

早稲田勝久 教授(医学教育センター)

2 教育目標

(1) **ねらい**(I-1-c, I-2-c, I-3-c, I-4-c, I-5-c, I-6-c, I-11-c, I-12-c, I-13-c, I-14-c, I-15-c, II-1-c, II-2-c, II-3-c, II-5-c, III-8-c, IV-8-c, V-1-c)

- ① 本学のコンピテンスである「プロフェッショナリズム」,「コミュニケーション」,「医学知識と科学的探究心」,「診療技能」,「地域社会への貢献」について学ぶ。
- ② 医師として社会の多様なニーズ対応できるようになるのみならず,多様なキャリアパスを展望できるようになるために,「医師として求められる基本的な資質・能力」である‘プロフェッショナリズム’,‘医学知識と問題対応能力’,‘診療技能と患者ケア’,‘コミュニケーション能力’,‘チーム医療の実践’,‘医療の質と安全の管理’,‘社会における医療の実践’,‘科学的探究心’,‘生涯にわたって共に学ぶ姿勢’などについて概要を理解し,様々な医療専門職と議論をしながら学修をすすめる。

(2) **学修目標**

- ① 医療面接に必要な基本的スキルを実践できる。
- ② 医学の各領域の代表的疾患の基本的病態・治療法を説明できる。
- ③ 医療を行う上で,関与している職種とその役割を説明できる。
- ④ チーム医療における医師の果たす役割を説明できる。
- ⑤ 医師に求められる倫理規範について概説できる。
- ⑥ 医師の説明責任について概説できる。

3 成績の判定・評価

(1) **総合成績の対象と算出法**

	成績 対象	割合	方法・コメント
定期試験	○	100%	A4 2枚程度の記述式
態度	○	—	受講態度が不良の場合は10点を限度に減点をする。

出席: 定期試験を受験するためには欠席率が3分の1を超えてはならない。

(2) **合格基準**

評価対象の合計が60%以上(又は60点以上)で合格とする。

(3) **再試験・再評価の方法**

再試験はレポートを課す(60%以上で合格)。

(4) **課題(試験やレポート)へのフィードバック**

定期試験の成績についての総括を学内メールで実施する。

答案に記載された内容について,理解が不十分と判断された場合は個々に理解度の確認を行う。

答案は基本的に返却され,採点項目を個々で確認する。

4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
指定教科書なし			

5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
平静の心ーオスラー博士講演集	ウィリアム・オスラー	医学書院	「医学はサイエンスに支えられたアートである」と述べた、臨床医・研究者として生き、医学教育の基礎を築いたオスラー博士の講演集。医学・医療に臨むすべての医療者の心構えについて啓発される。
医学を選んだ君たちに問う	河崎一夫	朝日新聞 2002.4.16 オピニオン 『私の視点』	すべての医学生が繰り返して読むべき講演内容である。医師になることの厳しさについて語られており、心が引き締まらずを得ない(ウェブ上で入手できる)。
医学部	鳥集 徹	文春文庫	一般人からみた医学・医療の現状・内情について解説されており、医学部・医療に入ってきた者として、今後の自身の在り方について考えさせられる。
医の知の羅針盤 良医であるためのヒント	ロバート・テイラー	メディカル・サイエンス・インターナショナル	医師として、人間としての成長のためにどうあるべきか、様々な視点からの助言集。手元に置いて、繰り返して読みたい内容である。
対話する医療 人間全体を診て癒すために	孫 大輔	さくら舎	あらゆる病いの緩和につながる対話する医療。患者の後ろに「家族の木」を見る家庭医の診察方法。医師の雑談やユーモア、共感力がもたらす癒しと治療の効果。新しい医療のカタチを明示している。
ケアの本質 ー生きることの意味ー	ミルトン・メイヤロフ	ゆみる出版	患者を診る(ケアする)とはどういうことか、その要素は何か、病める人と関わる者の姿勢、自身の在り方について考えさせられる。

6 準備学習（予習・復習）

講義終了後に、講義内容で印象深い点・今後学生生活を送るにあたって参考になる点などをまとめて記載しておく(1コマあたり0.5時間)。

7 授業計画

(1) 講義の方法

基本的に大教室での知識伝達型の講義であるが、講義中、一部小グループ討論や講師との質疑応答などの双方向の講義を導入する。

(2) 講義の内容

「医師として求められる基本的な資質・能力」の具体を、医師、コ・メディカルなどからそれぞれの領域の話題を提供してもらい、理解を深めていく。